

6.4 教育成果のあり方

進捗状況報告

【6.4.1】 【6.4.2】

教育・研究指導の成果の測定については、学科レベルや研究室レベルで院生への学会発表の義務付けやホームページ（HPを公開している研究室の割合は71%）を利用した成果の公表を行っているが、分野による特性の違いもあり組織として統一的な取り組みは行っていない。就職状況は教育効果を測るひとつの指標であるが、企業の意欲的な採用活動もあって2008年3月に最初の修士学位取得者が卒業した情報科学専攻も含め、2007年度も博士課程前期課程卒業生は順調に大企業へ就職している。博士課程後期課程の学生については、理工学研究科内に多数の研究プロジェクトが稼動しており、博士学位取得後に博士研究員として採用することは容易になっているが、安定した研究職に就くのはむずかしい状況が続いている。後期課程の学生確保のためには、卒業生とも連携した就職支援のためのシステム作りが必要である。

学生の学力を担保するため筆記試験を課して厳密な成績評価をしようとする動きは定着してきているが、まだ全講義の1～2割であり、全体的な流れとはなっていない。

学内第三者評価

「教育、研究指導の効果を測定するための方法」「厳密な成績評価の仕組み」などについて、全体的に検討段階にとどまっているものが多く、今後、研究科としての取り組みが進捗することを期待する。

なお、学外委員からは以下の意見があった。
学位授与基準の透明性を担保するためにも、大学院生の研究成果を客観的に評価するシステムの構築を進められたい。